



# はらじゅくかわら版

新年号

## 独立行政法人 国立病院機構 横浜医療センターの理念

私たちは人権を尊重し、思いやりの心をもって安全で納得していただける患者中心の医療を目指します。

私たちは、急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供するとともに、関係医療機関と密接な連携をもつ地域完結型医療を目指します。

私たちは、健全な病院経営を心がけ、患者の皆様がより良い医療を受けられ、地域で選ばれる病院になるべく日々努力していきます。



謹賀新年



富士山：当院7階から撮影

## 第51号 目次

院長の言葉	1
地域医療連携	2
戸塚区医師会会長挨拶	
特集 一医師が語る疾患一	3
第10回 下肢静脈瘤 -最新の治療法-	
心臓血管外科医長 盆子原 幸宏	
行事紹介	
戴帽式	4
DMAT参集 平成27年度政府広域医療搬送訓練	5
第51回 楓葉祭	7
病診連携の集い	8
連携病院協定	8
年男・年女	9

## お知らせコーナー

栄養管理室より～あずき粥の話～

外来担当医表／編集後記



発行月：平成28年1月

発行：独立行政法人国立病院機構

横浜医療センター 広報委員会

発行責任者：工藤 一大

住所：横浜市戸塚区原宿3-60-2

電話：045-851-2621

FAX：045-851-3902

URL：<http://www.yokohama-mc.jp>



●当院携帯サイトはこちらから

# 院長の言葉

## 新年あけましておめでとうございます。

皆様におかれましてはお健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

2015年の嬉しかったニュースは、ノーベル物理学賞を梶田氏、生理医学賞を大村氏が受賞したことや、W杯イングランド大会で日本のラグビーチームが大活躍したことがあります。フランスパリで2度にわたって起こったテロ事件では、多くの方が亡くなつた悲しいニュースでした。国内においては、9月に起きた関東・東北豪雨による洪水被害がありました。この時は、当院のDMAT隊が出動し、救助活動に当たりました。

日本は、自然災害の多い国だなということを、強く思います。当院は地域の災害時の拠点病院として、大災害時の医療体制の確保のための対応策を検討し、充実を図ってまいりました。

当院では、停電時の非常発電装置として重油を使用する装置に加え都市ガスによる発電装置を設置しています。これは非常用発電機兼用ガスコージェネレーションシステムと呼ばれ、発電+排熱利用でエネルギーを有効利用でき、契約電力を低減して電力料金を節約し、系統からの購入電力を削減する事ができ、節電に寄与するとされるものです。また、平時、災害時における地下水を利用した水確保も可能となりました。災害時に電気、上水道そして食料の最低限の確保が可能となりました。

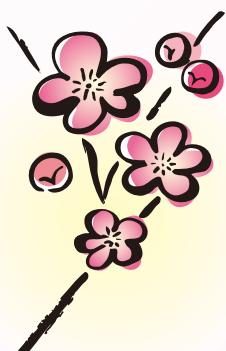
日本の医療政策は、所謂団塊の世代が75歳を迎える高齢者が増加する2025年問題を見据え、大きく変わろうとしています。政府による地

域医療構想により、地域完結型あるいは地域包括ケアといわれる、地域で急性期医療から、院長 工藤 一大亜急性期、回復期、慢性期、介護サービス、在宅医療などを、それぞれの施設の機能分化と密接な連携のもとに、充実させようとするものです。当院も地域の医療機関、介護サービス部門などと益々連携を強化し、これに対応しようと努力しております。

今年の干支は、丙申です。サルのように明るく活発に、行動力を發揮して、明るい年となることを願っています。

当院の理念であります「患者中心の医療」、「地域完結型医療」、「地域で選ばれる病院」をこれまでも目指して努力してまいりましたが、これからも一層努力し、地域の関係医療機関や行政とも密に連携して「医療の質と安全」の向上に積極的に取り組んでまいります。

今後も当センターへのご支援、ご鞭撻をお願い申し上げます。



# 病診連携施設紹介

## 戸塚区医師会メディカルセンター会長挨拶



新年明けましておめでとうございます。

平成27年5月より戸塚区医師会メディカルセンター第13代会長に就任しました紺野です。私達戸塚区医師会は戸塚区の皆様の保健、医療、福祉さらに災害対策に寄与するため日夜活動しております。

戸塚区医師会メディカルセンターの所在地は現在原宿の大正地区センターの隣ですが、施設の老朽化、耐震性の問題等にて、戸塚区中央の戸塚消防署近くへ移転をし、戸塚区区民のための休日急患診療所としての機能を充実させます。また現在舞岡にある訪問看護ステーションは廃止し、新たに戸塚区医師会館内に、在宅医療連携拠点事業とともに訪問看護ステーションを新設します。医師会と同じ場所に開設することが出来、さらに機能的に協力し運営してまいります。現在平成28年4月オープンへ向けて計画中です。

病診連携については毎年6月にテーマを決めて、病診連携会議を開催し、病－診、診－診、病－病の顔の見える連携に努め、さらに行行政との連携も重視し、行政と戸塚区医師会地域医療懇談会、戸塚区民まつり、救急災害、戸塚区防災訓練、戸塚区福祉保健センターとの連絡協議会、とかハートプラン策定・推進委員会等に参加しています。特に横浜医療センターとは近隣地区医師会と行政(区福祉保健センター、消防署、警察署)を交えて「地域医療支援病院運営委員会」を定期的に開催し病診連携に力を入れております。

地域保健として住民健診、乳幼児健康診査、

母親教室、検診事業、育児相談、成人健康・老人健康診査、がん検診、胸部検診・胃癌検診判定会等それぞれ参加活動しています。

戸塚区医師会  
メディカルセンター会長

紺野 勉

福祉事業として、訪問看護ステーションを開設し、看護師による訪問看護、居宅支援事業、理学療法士や作業療法士によるリハビリテーション等も行っています。さらに今年は在宅医療連携拠点を開設し在宅医療。介護に力を入れていく方針です。

横浜市より広域災害時の医療救護拠点に当センターをすると位置づけされました。戸塚区災害医療連絡会に参加し、行政、歯科医師会、薬剤師会、多職種の皆様と協力し災害に対処すべく対策を練っております。

これら以外の医師会活動としては、年に数回不定期の学術講演会を開催し、また定例研究会として肺読影研究会、胃X線研究会等学術のレベルアップに寄与しています。福祉厚生として区会員の親睦を中心に8つのクラブが活動し、会員の親睦に努めています。

横浜医療センターは戸塚区医師会会員にとって、最も頼りになる病院と評価しておりますので、今年も市民の皆様の健康を守るべく宜しくお願いします。

## 医療法人紺医会 紺野整形外科

診療科目：リウマチ科 整形外科 リハビリテーション科

〒244-0816 横浜市戸塚区上倉田町884-1

TEL : 045-862-2551

診療時間

9:00～12:30/14:30～18:00/土曜AMのみ 月・火・木～土曜

休診日: 水・日・祝



# 特集－医師が語る疾患－

## 第10回 下肢静脈瘤 -最新の治療法-

心臓血管外科医長 盆子原 幸宏



今回は、下肢静脈瘤について、最新のトピックスを織り交ぜてお話をさせていただきます。

下肢静脈瘤は、大腿(太もも)や下腿(ふくらはぎ)の皮膚表面の静脈が太く膨れあがることにより、蛇行して、ぼこぼこと浮き上がった状態で気づかれます(図1)。



(図1)

この段階では、見た目(美容上、気になるなど)以外は特に症状はありません。進行すると、足がむくんでだるい、重いといった症状が現れます。さらに進行すると、皮膚表面に褐色の色素沈着が始まり、鬱血性静脈炎、難治性皮膚潰瘍などに重篤化してしまいます。ですから、皮膚のダメージを防ぐためには、色素沈着が現れる前に治療を受けることが肝要です。

下肢静脈瘤の原因は、下腿内側を足首から鼠径部(ももの付け根)まで長く走行する大伏在静脈の弁機能不全によるものが大部分です。そのため、心臓に戻る静脈血が、重力に従い足首の方へ下がってしまうことから、静脈の鬱血、膨隆が起これり静脈瘤となります。この弁機能不全の原因の多くは、長時間・長期間に渡る立ち作業、妊娠出産、遺伝的素因と考えられています。

治療法として、静脈瘤を固めてしまう硬化療法、大伏在静脈の根元を閉じる高位結紮法、大

伏在静脈全長を引き抜くストリッピング法などがあります。これらに変わり、主に美容外科領域で保険外診療として、静脈内にカテーテルを挿入して、レーザー光で静脈内部を焼灼して静脈瘤閉鎖を行うレーザー治療が行われるようになりました。この方法は、皮膚を切開せず、注射針を穿刺するだけですから、皮膚に手術創が残らず、低侵襲かつ根治性の高い治療法となりました。ただし、保険外診療ですから一般病院に普及することはありませんでした。しかし、この治療が保険診療として認められるようになり、学会から認定を受けた施設ならば実施可能となりました。さらに最近では、レーザーに変わる高周波(ラジオ波)を用いたカテーテル治療が認可されました。

当院でも、昨年より施設認定を取得し、ラジオ波による静脈瘤カテーテル治療を開始致しました。手術の傷跡がほとんど残らず、術後の痛みも少なく、手術を受けられた方々からも好評を受けております(図2)。



(図2)

左 治療前 右 治療後

静脈瘤についてお悩みの方、不安のある方は、是非一度、当院血管外来(毎月曜午前)にお越しください。

# 行 事 紹 介

## 戴帽式

独立行政法人国立病院機構横浜医療センター附属横浜看護学校  
戴帽生代表 本間 瑞姫



平成27年10月23日に53回生の戴帽式が行われました。戴帽式とは看護学校において、看護師を目指すに相応しいと認められた看護学生に、看護師の象徴であるナースキャップが与えられる儀式です。

私たち1年生は期待と不安を抱きながら4月に入学し、およそ半年が経ちました。学校にも慣れ、人体の解剖などの基礎的な知識や、患者さんに安全・安楽な看護を提供する技術の習得に向け日々学習してきました。そして当日は、戴帽生として厳粛な雰囲気の中、女性はナースキャップを、男性はエンブレムを戴き、手にしたロウソクにナイチンゲール像の灯火を灯して、看護の道へ進む決意を新たにしました。

戴帽式に向けてナイチンゲール賛歌や校歌、誓いの言葉を練習してきました。誓いの言葉は、今まで学んできた看護に対する53回生皆の思いや、決意を言葉にしたものでした。たくさんの言葉、長い文章を79名全員で合わせるということは難しく、なかなか揃わずに、焦りも感じていました。しかし、授業開始前の朝、昼休み、放課後と時間を使って練習を重ねるうちに、段々と言葉は揃っていき、皆の気持ちもひとつになっていきました。そして当日は「息の合った誓いの言葉だった。」「美しいハーモニーのナイチンゲール賛歌や校歌だった。」といろいろな方からお褒めの言葉を頂く事が出来ました。

戴帽式には来賓の方々をはじめ、学校の先生や先輩、両親、祖父母など多くの方々が出席して下さり、改めて私たちの周りには沢山の支えがあるのだと実感しました。支えて下さる方々に感謝の気持ちを忘れず、これから実習や、更に専門的な知識や技術の習得に向け、日々取り組んで行きます。



# 行 事 紹 介

## DMAT参集 平成27年度政府広域医療搬送訓練

### 横浜市災害拠点病院として活動

庶務班長 須藤 治幸

8月31日(月)、9月1日(火)の2日間に渡って、都心南部直下地震（M7.3）横浜市、川崎市を中心に震度6強の地震被害想定による訓練が実施されました。当院は活動拠点本部として、附属看護学校にDMAT隊受援、戸塚SCU立ち上げ、患者受入や病院では多数病者受入訓練、行政機関、横浜市内災害拠点病院との連携訓練を行いました。

当初は地域医療搬送のハブとなる医療機関として、市内病院からの患者受入、派遣DMAT25隊の参集拠点、神奈川県健康危機管理課、横浜市医療調整チームとの連絡調整でしたが、病院において、当院での災害拠点病院としての多数傷病者受け入れも併せて行うことになり、急遽、附属看護学生60名が傷病者として対応する訓練を行うことになりました。

短期間での準備となり、院内の調整、災害マニュアル見直し、各部門別のアクションカード作成等々の検討や県内外から支援DMATチームに何をしてもらうか、活動場所や到着時刻、チーム数などの状況次第によって変わってきます。当然、訓練コントローラーとの調整が不可欠となります。

この度の災害訓練で情報の収集・連絡の重要性、連携を取りながら活動を行う訓練は貴重であり、参加者全員が大きな成果を得ることが出来ました。今後も定期的に訓練を実施する予定です。



## ○訓練形態

- 1) 病院災害本部立ち上げ（8月31日）
  - (1) 12時00分に発災後、院長が病院災害本部立ち上げを宣言
  - (2) 大会議室にて、災害本部設置、院長は本部にて各部門より被災状況の報告を受ける
  - (3) 病院・近隣の被災状況から診療継続の可否判断を決定する
  - (4) 災害モード宣言
  - (5) 災害本部より各部門へアクションカードを配布する
  - (6) EMIS入力
  - (7) 神奈川県DMA T事務局より当院DMA T隊は病院待機の要請を受け、DMA T2隊に病院待機を指示する
- 2) 多数傷病者受け入れ訓練（9月1日）
  - (1) 災害対策本部より救急部門に対しアクションカードを配布する
  - (2) 救急統括よりトリアージポスト立ち上げの報告を受ける
  - (3) 多数傷病者受け入れ訓練開始
    - ・患者想定：60名。トリアージ実施。各患者シナリオにあわせて、各エリアにて診療
- 3) 政府広域医療搬送訓練（9月1日）
  - (1) DMA T活動拠点本部設置（附属横浜看護学校）
  - (2) DMA T受援
  - (3) 戸塚SCU立ち上げ（附属横浜看護学校体育館）
  - (4) SCU（Staging Care Unit：広域搬送拠点臨時医療施設）を開設、他院から患者受入



# 行 事 紹 介

## 第51回楓葉祭

教員 高橋 亜衣子

さわやかな秋晴れとなった10月30日(金)、31日(土)に、第51回楓葉祭を開催いたしました。今年のテーマ『輪』に、病院職員や地域の方々とのつながりや、学生同士のチームワークを大事にしたいという思いを込め、学生の自治会の楓葉祭実行委員会を中心に4月から準備を進めてきました。

30日は教育講演が行われ、横浜医療センターがん看護専門看護師である日塔裕子先生に「がん看護専門看護師の役割～病院内・外でのつながりを調整し患者をケアする～」というテーマでお話をしていたきました。



31日は一般公開が行われました。2階では各学年担当の学習展示があり、1年生は骨の特徴や発達段階について完成度の高い展示物をつくり、同じ場所で骨密度測定を実施しました。2年生は来場者へ手浴を行い、多くの方に喜んでいただきました。また、3年生は看護技術体験を行い、地域の方へ自分たちが学習している看護技術について説明したり、体験していただきました。例年好評のバザーも2階の教室で行い、昨年以上の売り上げがありました。また、1階ではホールにてボーリングゲームの実施、体育館では各模擬店による豚汁やカレー、焼きそば、ワッフルや焼き菓子の販売を行いました。今年度の体育館は飲食スペースとしてテーブルと椅子を入れ、模擬店で購入したものをして召し上がっていただけるようにしました。また、ステージ上では、テーマ『輪』にちなみ学生一人一人の手形を集めたメイン装飾をバックに、今年初の試みとして学生有志によるD Jやバンド演奏、弾き語り、ダンスなどの披露をおこないました。有志たちは、地域の方に喜んでいただけるような曲目の選択や、入念なリハーサルを行い当日を迎えていました。

このように楓葉祭が盛況のうちに閉会できたのは、地域の皆様や病院職員の協力のおかげだと思います。本当にありがとうございました。これからも学生一人ひとりが『輪』の重要性を再認識し、今後の看護の学習に取り組んでいけるよう支援していきたいと思います。



# 行 事 紹 介

## 平成27年度 病診連携の集い

地域中核連携室長 末永 邦仁

横浜医療センターでは、その理念の中に「急性期の地域医療を基盤として質の高い総合的な専門医療を提供するとともに、関係医療機関と密接な連携をもつ地域完結型医療を目指します」とあるとおり、地域の医療機関との密接な連携を構築する中で、地域医療の向上の推進を目指しています。

この目標を踏まえ、当院と連携していただいている地域の医療機関の先生方と、より緊密な連携がとれる体制を構築すべく、毎年「病診連携の集い」を開催しているところです。

このたび、平成27年11月26日に、当院の登録医の先生方など86名の参加をいただき、今年度の「病診連携の集い」を、横浜医療センター附属横浜看護学校を会場として開催しました。

当日は、今年度、当院で新たに診療科を標榜した「緩和ケア内科」の小川部長から、当院の緩和ケアについての取り組みについて報告したほか、今回は、横浜市医療局の岡田副局長をゲストに迎え、最近の医療政策におけるトピックである「地域医療構想」についての情報提供をいただくなど、地域の先生方からも関心の高い内容について、お知らせすることができました。

また、各診療科の医師から、それぞれの診療科の特徴等についての紹介があり、当院の診療機能についても、地域の先生方との共有が図られました。



## 連携病院協定

### 独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜保土ヶ谷中央病院との連携病院協定の締結

当院では、平成27年9月25日に独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜保土ヶ谷中央病院と連携病院協定を締結しました。

横浜保土ヶ谷中央病院とは、地域に対する使命を果たし得る病院づくりを目指す病院同士として、病院間で連携を図ってまいります。



独立行政法人地域医療機能推進機構 横浜保土ヶ谷中央病院  
後藤 英司院長(左)と当院工藤院長(右)



# 年男・年女



臨床工学技士  
大江 直義

横浜医療センターの臨床工学技士（ME）として就職して約5年が経ちました。私が就職した当時は、MEは5人しかいませんでした。当時もon call体制でしたので、平日、週末問わず呼び出されていました。このように、診療科からの必要性と機器管理の重要性から、少しずつ増員が認められ、今では常勤8名、非常勤3名、計11名まで増やすことが出来ました。MEは院内の生命維持装置の保守管理を行っております。また、血液浄化業務や心臓カテーテル検査業務、人工心肺業務などに携わっています。これらの業務と関わりのない部署ではありませんが、院内でのMEの認知度を上げるべく、部署一丸となって今年も頑張っていきたいと思っております。



臨床検査技師  
中野 里美

今年の4月で臨床検査技師3年目を迎えます。入職時は右も左も分からず自分自身のことでも精一杯だったような気がしますが、諸先輩方にたくさんの知識や技術を教えていただき何とかここまでくることが出来ました。最初は検体検査部門に配属されていたのですが昨年の10月から生理検査部門に配置換えとなりました。生理検査では患者さんと直接関わるという違いがあり戸惑うことも多いですが、安全で安心な検査を進めるためにはスタッフとのコミュニケーションが大切であり検体検査と変わらないと感じています。これからもコミュニケーションを取りながら患者さんの立場になって考え、少しでも不安をとりのぞいた検査ができるように努めていきたいです。



西7病棟 看護師  
中村晴菜

今年の4月で看護師3年目になります。就職したての時は、覚えることが沢山あり、毎日仕事をする事で一杯いっふいでいた。2年目になり、少しづつ周りを見渡す余裕が出来、患者さんに寄り添う時間が多く持てるようになってきた気がします。

私の病棟は、入退院が多く慌ただしい日々を送っていますが、患者さんの笑顔や「ありがとう」の言葉はわたしの力の源であり、やりがいだと感じています。

これからも、多くの患者さんと関わる中で、知識・技術を磨き、大人として、看護師としてより一層成長していくらと思っています。



東4病棟 助産師  
阿部 萌香

助産師として働き始めて2年目となりました。2年間で、多くのお母さんや赤ちゃんと出会い、たくさんの貴重な瞬間に立ち会うなかで、妊娠・出産は感動や興奮と共に、常に危険と隣り合わせであり助産師として、悩み葛藤することも多くありました。しかし最近は妊娠期の関わりの中で私の事を覚えて下さる方や、取り上げた赤ちゃんを退院後に見せに来てくださる方もいらして、助産師としての励みを感じることも増えました。

今年は年女として、支え合える同期と優しく頼れる先輩方の力を借りながら、お母さん方に寄り添いながら的確にアドバイスでき、支えられる助産師を目指し、笑顔で頑張りたいと思います。



手術室看護師  
藤原 早苗

横浜医療センターの手術室に配属されてあっという間に2年が経ちました。1年目は直接介助を中心に手術につき、2年目は間接介助や1年目の時に経験できなかった手術に入っています。常に新しい知識が求められるため自分が担当する手術について事前準備と事後の振り返りをして充実した日々を送っています。

手術室は、病棟とは違う雰囲気であるため患者さんが緊張されます。私たちは、手術前に病棟で患者さんのお話を伺い、当日は患者さんの好みの音楽を流しリラックスできるようにしています。これからも、患者さんが安心して手術に臨めるよう責任をもって対応することを心がけていきたいと思います。

# お知らせコーナー

## あずき粥の話

栄養管理室長 矢ヶ崎 栄作

1月15日の小正月の朝には、1年の邪気を払い、無病息災、家内安全を祈ってあずき粥を食べる風習がありました。縁起だけではなく、あずきには私たちを有害なものから守る多くの成分が含まれています。良質なたんぱく質の他にカルシウム、リン、鉄、食物纖維、また、ビタミンはB2、B6のほかB1も含まれています。そして活性酸素の増加を抑えるアントシアニンやサポニン、現代人に不足しがちな亜鉛なども含まれています。

あずきを茹でるときに泡が出ます。この泡の成分がサポニンです。咳を鎮めたり痰をとる作用、利尿作用によるむくみ防止、又、血栓予防や血液浄化に役立ち心臓の機能を整える働きもあります。

昔は、産後の肥立ちが悪い女性にあずき粥を食べさせていました。産後にできやすい血栓の予防や、出産や授乳で失われる鉄分の補給、食物纖維による便秘解消など、栄養補給にはぴったりです。



### 【作り方】目安量 2人分

- ①あずき(大さじ2)を(水洗いし、小さな鍋にあずきが浸る程度の水で強火にかけ、沸騰したら一度ザルにあげ茹で汁を捨てる。)
- ②鍋に水300ccとあずきを入れて火にかけ、沸騰したら弱火で蓋をして40分程度茹でたらザルにあげる。  
(今回の茹で汁はとっておく。)
- ③鍋に研いだ米(1/2カップ75g)、水200ccと茹で汁50cc、あずきを入れ火にかけ、沸騰したらすぐに弱火にし、塩(お好みの量)を入れる。アクをすくいながら、約40~50分炊く。(※水が足りない場合は途中で差し水をする。)
- ④米に対して水分がすりきりになる程度まで炊けたら 塩味を調節し、お好みのトッピング 焼き餅や胡麻を入れて出来上がりです。

時間はかかりますが手間はかかりません。本来15日の小正月に作るものですが、今からでも食べられてみたら如何でしょうか？

独立行政法人  
国立病院機構 横浜医療センター 外来診療担当医表

平成28年1月1日～

診療科・曜日		月	火	水	木	金	備考
外来受付	小児科	鈴木 陽一	福山 純子	小林 葵典	鈴木 陽一	塙谷 裕美	
		伊藤 青容	石津 博子	大杉 康司	矢竹 曜子	伊藤 青容	
		大崎 明	五十嵐 麗沙	二村 真琴	今野 栄華	宮沢 啓貴	
	心臓血管外科	盆子原 審宏	休診日(手術日)	東館 雅文		東館 雅文	
		村下 一晃	休診日(手術日)	村下 一晃	村下 一晃	村下 一晃	
		瀬上 秀威	日塔 寛界	瀬上 秀威	日塔 寛界	上條 晃	
A	整形外科	小林 明裕	伊藤 りえ	伊藤 りえ	上條 晃	小林 明裕	
		仲 拓磨	日野 勝利	仲 拓磨	藤田 真太郎	藤田 真太郎	★日塔 寛界
★:予約患者のみ							
外来受付	総合内科外来		交代医師	交代医師	交代医師	交代医師	交代医師
	糖尿病内分泌内科		重松 義理奈	宇治原 誠	重松 義理奈	宇治原 誠	小松 裕美子
	小松 裕美子		重井 裕美子	高橋 竜哉			
	神経内科		浅野 健也	小林 紗礼奈	上木 英人	遠藤 雅直	
	腎臓内科		岡田 美紗子	岡田 美紗子	岡田 晴悟	松下 啓	休診日
	呼吸器内科		松下 啓	中野 雅友樹	岡田 晴悟	松下 啓	休診日(検査日)
	後藤 秀人		休診日(検査日)	小崎 亮太	休診日(検査日)	後藤 秀人	横原 基史
	横原 基史		後藤 秀人	●田中 美子	後藤 秀人	小崎 亮太	交代医師(初診)
	消化器内科		久礼 里江(初診)	日向 有紀子(初診)	小松 進司(初診)	松島 昭三(初診)	交代医師(初診)
	交代医師		鈴木 大輔	松島 昭三	野曾 はるか	小松 進司	
	燕 文章		■小松 進司	■小松 進司	■小松 進司	■小松 進司	
	循環器内科		岩出 和徳	津渕 景子	矢崎 敦一郎	岩出 和徳	
	網代 洋一		網代 洋一(午前)			■塙本 圭	
	■塙本 貴士		■塙本 貴士				
	初診: 岩出 和徳		初診: 岩出 和徳	初診: 岩出 和徳	初診: 岩出 和徳	初診: 森 文章	
	リウマチ科		出口 治子	休診日(検査日)	小林 幸司	出口 治子	出口 治子
	■出口 治子				■出口 治子	■小林 幸司	
	清水 哲也		閻戸 仁	松田 恵郎	閻戸 仁	閻戸 仁	休診日(手術日)
	速澤 順		高橋 直行	松田 恵郎	坂本 里紗	清水 哲也	
	朴 傲		山本 悠史	山本 悠史	山本 悠史	中嶋 佑介	
	■太田 郁子						
B	呼吸器外科		五味 厚生	五味 厚生			新患の受付は火曜日午前、木曜日午前に限らせて頂きます。
	脳神経外科		休診日(手術日)	交代医師①	交代医師②	休診日(手術日)	藤津 和彦
	交代医師①		手術日	◇脳ドック	休診日(手術日)	市川 輝夫	初診には紹介状が必要
	継和ケア内科(ペイン・緩和)		小川 寛一	小川 寛一	小川 寛一	小川 寛一	○佐々木 祐幸
	耳鼻咽喉科		佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	佐々木 祐幸	○:予約外の診察には紹介状が必要
	眼 科		木村 正彦	木村 正彦	木村 正彦	木村 正彦	初診には紹介状が必要
	内匠 秀尚		秦 桂子	秦 桂子	秦 桂子	秦 桂子	火曜日は新患のみ診察
	手術日						
	泌尿器科		遠井 拓雄	平井 耕太郎	休診日(手術日)	遠井 拓雄	●皮膚科の初診は紹介状が必要。
	森 豊平		森 豊平	柳澤 昌宏	柳澤 昌宏	森 豊平	●水曜日は予約患者のみ診察。
C	皮膚科		白井 京美	白井 京美	白井 京美	白井 京美	●水曜日午後は手術の為、入院患者の依頼はお断りしています。
	上田 騎士		上田 騎士	手術日	上田 騎士	上田 騎士	初診には紹介状が必要
	心 症 内 科		心理検査	心理検査	心理検査	心理検査	①:第1・3・5週 国田 富 、第2・4・6週 宮原 宏輔
	精神科		杉山 鮎子	大橋 東莉子	古野 拓	木谷 卓矢	②:第1・3・5週 瓜生 康麻 、第2・4・6週 谷野 優
D	婦人科		木村 正彦	木村 正彦	休診日(手術日)	土屋 美江	△:脳ドックの詳細はPM2:00~5:00の間に「医事 脳ドック受付」までお問い合わせください。
	内匠 秀尚		秦 桂子	秦 桂子	秦 桂子	宮崎 秀仁	※乳癌外科の初診には紹介状が必要。
	手術日						※月～金: 初診の方は9時50分までに受付を済ませてください。(要紹介状、1日1名の予約制) 初診は左記の再診医室以下の医師が診察します。詳細は精神科外来にお尋ねください。
	産 科		若林 琢南	奥田 美加	窪田 吾典	栗木 理絵	初診には紹介状が必要
E	産科(交代医師)		永井 康一	高山 智子	下向 麻由	下向 麻由	初診には紹介状が必要
	妊娠検診(交代医師)				栗尾 梓	向田 一憲	妊娠検診(交代医師)
F	歯科口腔外科		根岸 明秀	根岸 明秀	根岸 明秀	根岸 明秀	地域連携室を通して完全予約制
	(再診のみ)		(午前初診・午後再診)	柴崎 麻衣子	(午前初診・午後再診)	(午前初診・午後再診)	初診: ハ・木曜日 8:30~11:00。要紹介状/診療情報提供書。 再診: 全年予約制。 再診: 完全予約制。 再診: あらかじめ電話連絡して下さい。
専門外来	小児科	アレルギー検査(③)	腎臓外来(④)	アレルギー(塙谷 裕美)	フォローアップ外来(塙谷 裕美)	アレルギー(宮沢 啓貴)	③: 第2・3・第4週
		シナジス(9~4月)(矢竹 曜子)	フォローアップ外来(矢竹 曜子)	1ヵ月健診(交代医師)	1ヵ月健診(交代医師)	長濱 晶子	④: 第1・3週(火)長濱 晶子
		神経外来(⑤)					⑤: 第2・4週(火)渡辺 好宏
		感染免疫・アレルギー(小林 美央)	アルギー(鈴木 陽一)	予防接種(交代制)13:30~14:30	1ヵ月健診(矢竹 曜子)	循環器外来(鈴木 陽一)	⑥: 第2・4週(月)内分泌 大杉 康司
		内分秘(⑥)(大杉 康司)	アルギー(石津 博子)	循環器外来(鈴木 陽一)月1回	アレルギー(塙谷 裕美)		⑦: 第2週のみ
		骨髄外来(⑩)	手外科(⑪)	骨髄外来(手外科)	スポート整形外科(⑫)		⑧: 毎週14:00~15:00(地域連携室を通しての完全予約制)
	神経内科		頭痛外来	腹膜透析外来	腹膜透析外来		⑨: 毎週15:00~16:00、⑩: 毎週14:30~15:30
	糖尿病内分泌内科		胃腸外来(バスマ来)	感染症外来			地域連携室を通して完全予約制
	腎臓内科		腹膜透析外来	感染症外来			△: 第2・4週(頭痛外来)、第1・3・5週(腹膜・嚥下外来)
	感染症内科						
	看護部						
	外科		スキンケア外来	スキンケア外来			※乳がん検診、乳腺外科は完全予約制
	心臓血管外科		血管外来			大動脈瘤・ステントグラフト外来	
	耳鼻咽喉科						
予約制	循環器科			ベースメカ外来(網代 洋一)	睡眠時無呼吸症候群外来(網代 洋一)		
	精神科		物忘れ外来	助産師外来	助産師外来	物忘れ外来	初診には紹介状が必要。地域連携室を通して完全予約制
	座婦人科		助産師外来(母乳外来)(午後)	助産師外来(母乳外来)(午後)	助産師外来(母乳外来)(午後)	助産師外来(母乳外来)(午後)	
	▽母親教室			▽母親教室			▽:午後のみ。立会い教室は第2、4週土曜日、第3週日曜日。
	呼吸器内科						地域連携室を通して完全予約制(第1金曜日のみ)
	放射線科		杉山 正人	杉山 正人	杉山 正人	幅多 政治	9:00~11:00 地域連携室を通して完全予約制
病理診断科		※	※	※	※	※	※担当医: 新野 史 完全予約制(1~2名)、診療日は流動的

初 診 受 付 : 平日 8:30~10:00

再 診 (予約外) 受 付 : 平日 8:30~10:00

休 診 日 : 土曜・日曜・祝日・12月29日~1月3日

地域医療連携室(脳ドック受付)(TEL 045-853-2331)

お知らせ 色つき部分が変更箇所となります。ご確認の上受診ください。

※急患は随時受け付けます。来院前に病院にご連絡下さい。(TEL 045-851-2621)

※紹介状又は、診療情報提供書をお持ちの方は、外来受付窓口にご提示下さい。

※地域医療連携室 TEL 045-853-8355 (月~金 8:30~17:00)

TEL 045-851-2621 (時間外、土・日・祝日)

FAX 045-853-8356

◆編集後記◆

今年は十二支の中で第9番目の申年です。

猿は木の上を飛び回る、とても活発な印象を持つ動物です。申年生まれの人が、1人いると場が明るくなり、悪い空気を変えられるポジティブ思考だそうです。

2016年、行動力を發揮して元気よく楽しい年にしたいですね。(S. H)